

里川文化塾

詳細はHPで公開しています。

<http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/>

暮らしとかかわるすべての水循環の経路を、私たちのセンターでは「里川」と呼んでいます。いろいろな里川を発見しその価値を身近に感じたい！ということで、2011年度からスタートした「里川文化塾」。「野川を歩く～都市河川を考える～」(4月5日)と「演習林で学ぶ「森と水」」(5月11日)のご報告です。

第11回里川文化塾 野川を歩く～都市河川を考える～

会期：2013年4月5日（金）9：30～16：00

フィールド：JR中央線 武蔵小金井駅～滄浪泉園～小金井神社～くじら山～武蔵野公園～野川公園～峯岸水車～大沢橋下（この間を10kmほど歩きました）

プログラムリーダー：新美敏之・松本裕佳（株）ミツカングループ本社

ナビゲーター：若林高子さん 環境省環境カウンセラー

堀井光夫さん エコロジカル野川の会副代表

野川は、国分寺崖線（がいせん）の湧水を集めて流れ、多摩川に注ぐ延長20kmの一級河川です。高度成長期には生活雑排水が流入して、汚れたドブ川となっていました。野川再生に立ち上がった市民たちの活動は、先駆的なもの。長らく市民活動にかかわってきたお二人に、野川の歴史と現状について解説していただきながら、10kmほどの行程を歩きました。半世紀前には水車が点在する地域でしたが、農地が減って玉川上水の水が入らなくなってからは水量も減り、水道（みずみち）が断たれたことで湧水も減少。冬は水涸れという新たな問題を抱えています。被覆率の高い土地で、地下浸透をどうやって増やしているのか、都市河川の抱える課題について考えさせられました。



第12回里川文化塾 演習林で学ぶ「森と水」

会期：2013年5月11日（土）10：00～15：30

会場：東京農業大学・奥多摩演習林及び演習林研修センター

プログラムリーダー：前川太一郎さん ライター・編集者

講師：菅原泉さん 東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科教授

奥多摩演習林長（写真下中央）

156haの東京農業大学・奥多摩演習林では、森林の仕組みや動植物との関係、森林の環境的機能、造林や間伐の方法、作業道の実証的な設計などについて研究しています。フィールドとなるのはきつい傾斜地。計測装置を設置すること一つとっても、大変な労力の下で研究が進められていることを、山に入って実感しました。

林業経営計画に則った管理・保全を行なうために、立ち木の〈林分材積〉を測る方法や、表層土を観察して、森林土壌の状態や根系を把握する必要性、増え過ぎた鹿の害など、フィールドならではの経験ができました。



2013年は、以下の里川文化塾を準備中です。詳細はHPでお知らせしています。

7月21日(日)「野草探しから草木染め&がさがさ体験」

9月 7日(土)「大久保長安が築いた八王子の町と水」

10月18日(金)「拡がる雨水利用」

11月 8日(金)「和紙と木版画の今」

■水の文化45号予告

特集「雪」(仮)

屋根や道路の除雪の苦労や、厳しい寒さと闘う雪国の現状。とかく厄介もの扱われる雪の有効利用を模索します。



水の文化 Information

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水とのかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今年度の企画についても、詳細は順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

編集後記

◆ 久しぶりの水族館。珍しい水族か、きれいな魚を見て、おしまいたった水族館。取材した水族館の皆さんの愛情・努力・工夫に触れるにつけ、見方や楽しみ方も変わりました。再発見のため水族館巡りをしたいものです。でもペンギンばかりじゃなかった！(後)

◆ 元来の釣り好きから、昔から水族館は好きだった。泳ぐさまざまな水中の魚の動きがわかるので、釣りの参考にもなる。楽しかったり、癒しの場だけでなく、環境教育や種の保存などの役割も大切だ。これからの水族館が楽しみだ。(新)

◆ 観光スポットにはほとんど存在する水族館。展示方法・バックヤード・飼育研究体制において業界が切磋琢磨し、個性を磨いて市場を切り開いている結果であることに納得。しばらく足を運んでいない方、もったいないのでこれを機会に是非！(松)

◆ 今回は取材に同行できず残念。私の水族館の記憶は油壺マリンセンター。魚が足し算をするので有名でした。今や大型化する水族館ですが、身近な小さな水族館の楽しみ方も忘れずにいたいなあ。久々に行ってみようかしら。(ゆ)

◆ きれいな水槽の向こうにある人の情熱や温もりに触れ、ますます水族館が大好きになった。特に、思い出深い故郷のマリンピア松島を訪れたのは本当に良かったと思う。建設予定の水族館も、仙台の子どものための大切な場所になりますように。(原)

◆ マリンピア松島水族館に入ります目に入るのがペンギンコーナー。瞬く間にそのしぐさや泳ぎに心を奪われて、わずか1時間足らずの間にシャッターを切ったのが2000枚。今では自分の部屋の一角に、ペンギングッズのコーナーができてしまいました。(力)

◆ 遠賀川を辿っているいろいろなものが見えました。古代の村、川を遡る鮭、炭鉱の賑わい、そして良い川をつくらうと働く人々。ただ遠賀堀川には民家から洗剤の泡がブクブクと流れこんでいました。7月のシンポジウムが実り多いものとなりますように。(麻)

◆ 水草と魚と二枚貝と砂粒の微生物。こうした多様な生態系が小さな水槽の中に共存すれば、バランスの取れた環境をつくることができる。本当は、地球もそうだったはずなのに。鈴木将広さんの話を感心しながら聞いた。何事もバランスが大切。(賀)

発行日 2013年(平成25)6月

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第44号

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
島谷幸宏 九州大学工学研究院教授
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

客員主幹研究員 中庭光彦 多摩大学准教授

制作 後藤喜晃 新美敏之 松本裕佳 小林夕夏 原田朱野

編集製作 賀川一枝 編集長 小野田麻里 中野公力 賀川啓明 撮影・デザイン

発行 ミツカン水の文化センター
〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中壘ビル4F
株式会社ミツカングループ本社
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

お問い合わせ ミツカン水の文化センター 事務局
〒104-0043 東京都中央区湊3-4-10 レジディア10F
Tel. 03 (3552) 7504 Fax. 03 (3552) 7506

※ 禁無断転載複製